



特別史跡 三内丸山遺跡

北海道・北東北の縄文遺跡群は、採集・漁労・狩猟を生業に1万年以上も続いた人々のくらしや精神文化を今に伝える貴重な文化遺産です。  
本資産が位置する日本列島北部では、ブナ・クリ・クルミなどの森林資源や暖流・寒流が交わる海域が育んだ水産資源を背景に、今から約15,000年前に定住がはじまりました。その後、1万年以上にわたり農耕に移行することなく、採集・漁労・狩猟による定住を発展・成熟させました。この間、精緻で複雑な精神文化も育まれ、環状列石や周堤墓などの祭祀・儀礼の場も充実しました。

## 北海道・北東北の縄文遺跡群の4つの特徴

### 自然資源をうまく利用した生活のあり方を示すこと

森林資源や水産資源を持続的に管理・利用することによって、1万年以上の長期間にわたって採集・漁労・狩猟による定住生活が営まれたことを示す稀有な例です。



クリ・クルミ・トチノミ  
⑧ 御所野遺跡(ステージIIb)

### 北東アジア最古級の土器

① 大平山元遺跡(ステージIa)  
紀元前13,000年頃の無文土器。煮炊きのあとがついている。移動生活に適さない土器の出現は、定住の開始を物語る。



こくようせきせい せきぞく  
黒曜石製の石鏃(狩猟具)  
⑥ 三内丸山遺跡(ステージIIb)

弓矢の登場によって、シカ、イノシシ、ノウサギなどの中・小型動物の狩猟が行われた。



せきすい  
石錘(漁労具)

② 垣ノ島遺跡(ステージIb)  
河川や沿岸部に生息する魚類を捕獲するため、漁労網のおもりとして用いられた。



動物の骨  
⑥ 三内丸山遺跡(ステージIIb)

### 祭祀・儀礼に基づく精神性を示すこと

墓や貝塚・盛土、石を円環状に配置した環状列石、土偶などは、祖先や自然を敬うこころ、豊穰への祈りなど、人々の精神文化を最も明瞭に示す物証です。



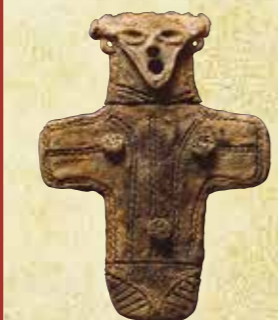
あしがたつ どぼん  
足形付き土版  
② 垣ノ島遺跡(ステージIb)

子どもの足形を押した土製品。墓に副葬されることもあり、この地域独特の葬送を示す。



### 環状列石と夏至の日没

④ 大湯環状列石(ステージIIIa)  
日時計状の石組と環状列石の中心を結んだ線は、夏至の日に太陽が沈む方向とほぼあう。



どぐう  
土偶  
③ 三内丸山遺跡(ステージIIb)

縄文時代を通じて普遍的にみられる人形を表現した土製品。女性性を表現したものが多い。



しゅうていぼ  
周堤墓  
④ キウス周堤墓群(ステージIIIb)

高い土手で囲まれた大規模な墓。祖先崇拜を通じて人々の結びつきが確認されたと考えられている。

### 集落の立地と生業の関係が多様であること

食料を安定的に確保するため、山地、丘陵、内湾や湖沼の沿岸、河川付近などに集落をつくり、その環境に応じて技術や道具を発達させてきたことを具体的に示す例です。



こっかくせい つ ぼり  
骨角製釣り針

⑤ 入江貝塚(ステージIIIa)  
海や湖沼に面した集落では、骨角製の釣り針や鈎などの漁労具が発達した。



### 編みかご(縄文ポシェット)

③ 三内丸山遺跡(ステージIIb)  
針葉樹の樹皮を縦横に編んで作られ、中にはクルミが入っていた。



うるしぬ どき  
漆塗り土器

⑦ 是川石器時代遺跡(ステージIIIb)  
赤色の漆が塗られた容器。ウルシの樹液の採取から加工に至る高度な工芸技術を伝える。



ろっかくせいし  
鹿角製櫛

⑨ ニツ森貝塚(ステージIIa)  
精巧に加工され、高度な製作技術と豊かな精神性を伝える。

### 集落形態の変遷を示すこと

1万年以上継続した生活のなかで、気候変動・火山噴火などの環境変化や社会のあり方に応じて、人々が集落のかたちを変えてきたことを明瞭に示す例です。



たてあなたでものあと  
堅穴建物跡

⑦ 大船遺跡(ステージIIb)

地面を掘り下げて床を作り、柱で屋根を支えた構造の建物。定住を示す普遍的な構築物。



かいづか どこうぼ  
貝塚(右上)と土坑墓(中央)

⑧ 北黄金貝塚(ステージIIa)

貝塚では、生活道具や貝殻、動物・魚の骨のほか、墓や埋葬人骨が見つかるため、祭祀・儀礼の場でもあったと考えられる。



ちよぞうけつ  
貯蔵穴

③ 三内丸山遺跡(ステージIIb)  
半地下式の貯蔵施設。主にトチやクリなどの堅果類を貯蔵したと推定されている。



もりど いこう  
盛土遺構

⑦ 大船遺跡(ステージIIb)  
大量の土器や石器、土砂などが累積し、祭祀・儀礼が継続して行われていたことを示す。